

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-299153

(P2001-299153A)

(43)公開日 平成13年10月30日(2001.10.30)

(51)Int.Cl.	識別記号	P I	キーワード(参考)
A 01 K 85/00 97/2A	3 0 1	A 01 K 85/00 97/2A	3 0 1 A 2 B 1 0 7

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全 5 頁)

(21)出願番号 特願2000-118861(P2000-118861)

(22)出願日 平成12年4月20日(2000.4.20)

(71)出願人 000155757

株式会社デュエル

佐賀県武雄市橋町大字大日2111

(72)発明者 北川 安洋

佐賀県武雄市橋町大字大日2111 株式会社

デュエル内

(74)代理人 100074332

弁理士 藤本 昇 (外1名)

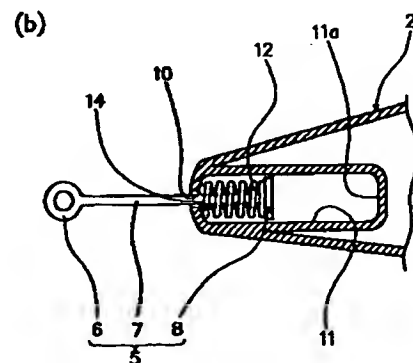
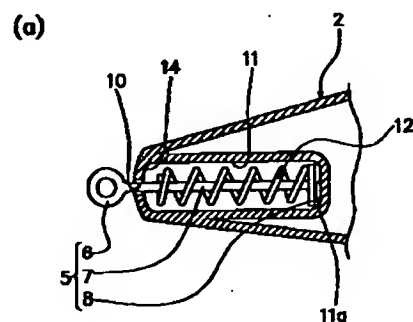
Fターム(参考) 2B107 BA18 BA20

(54)【発明の名称】 擬似餌

(57)【要約】

【課題】 本発明は、根掛かりを解除し易い擬似餌を提供することを課題とする。

【解決手段】 擬似本体2に、ミチ条が連結される連結部5を備える擬似餌に於いて、前記連結部5が、前記擬似本体2に出退可能に設けられており、前記連結部5は、前記擬似本体2内部側に付勢されている擬似餌を解決手段とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 擬似本体（2）に、ミチ糸が連結される連結部（5）を備える擬似餌に於いて、前記連結部（5）が、前記擬似本体（2）に出退可能に設けられており、前記連結部（5）は、前記擬似本体（2）内部側に付勢されていることを特徴とする擬似餌。

【請求項2】 前記連結部（5）が、擬似本体（2）の遊泳方向に沿って出退可能に構成されている請求項1記載の擬似餌。

【請求項3】 擬似本体（2）に、ミチ糸が連結される連結部（5）を備える擬似餌に於いて、前記連結部（5）が、伸縮可能に構成されていることを特徴とする擬似餌。

【請求項4】 イカ釣り用に使用される請求項1～3の何れかに記載の擬似餌。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、釣りに使用される擬似餌に関し、特にイカ釣り用（イカ用擬似餌）に好適な擬似餌に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来、擬似餌は、例えば、魚などの形状を真似た擬似本体と、釣り針と、ミチ糸が連結される連結部とを備え、前記連結部にミチ糸を締結して水中を遊泳させることにより、使用されるものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、一般に、擬似餌などの仕掛け類は、水底の岩やブロックなどの障害物に引掛かり（いわゆる根掛かり）、この根掛かりを解除しようと努力しても、結局紛失せざるを得ないことが往々にしてある。

【0004】さらに、一旦、対象魚を釣り針に引掛けた後に、外れ易い傾向にあるという問題点もある。例えば、イカ釣り（特にアオリイカ釣り）に於いては、口唇ではなく、主として足や鰭などに釣り針を引掛けるため、これに使用される釣り針は、引掛け易くするために、通常、もどし（外れ防止用の逆棘状の尖部）が設けられていないか、或いは、極めて小さなもどしが設けられているに過ぎない。しかしながら、実質的にもどしが設けられていないため、一旦引掛けた後、ミチ糸の緩みなどによって外れ易い傾向にある。例えば、擬似餌や釣果対象たるイカのサイズに比して硬い竿を使用した場合には、一旦、釣り針にイカを引掛けた後、イカの動きに竿先が追従せずに釣り針からイカが外れ易い傾向にある。また、かかる竿を必要以上に煽ると、直接イカの身が切れることによって、針外れが生じることもある。いずれにしろ、針外れを防止することが望まれている。

【0005】本発明は、従来の擬似餌に比して、根掛かりを解除し易い擬似餌を提供することを第1の課題とす

る。さらに、本発明は、針外れを生じにくい擬似餌を提供することを第2の課題とする。また、イカ釣り用として好適な擬似餌を提供することを第3の課題とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決する手段としては、擬似本体2に、ミチ糸が連結される連結部5を備える擬似餌に於いて、前記連結部5が、前記擬似本体2に出退可能に設けられており、前記連結部5は、前記擬似本体2内部側に付勢されている擬似餌に係り、特に、前記連結部5が、擬似本体2の遊泳方向に沿って出退可能に構成されている擬似餌が好ましい。

【0007】また、擬似本体2に、ミチ糸が連結される連結部5を備える擬似餌に於いて、前記連結部5が、伸縮可能に構成されている擬似餌に係る。

【0008】さらに、擬似本体2に、ミチ糸が連結される連結部5を備える擬似餌に於いて、前記連結部5が、前記擬似本体2の遊泳方向に沿って出退可能に設けられており、前記連結部5は、前記擬似本体2内部側に付勢されている擬似餌に係る。

【0009】上記各擬似餌は、イカ釣り用に使用されることが、より効果的である。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る擬似餌の実施形態に関し図面を参照しながら説明する。図1に於いて、1は、所定形状（例えば海老に形状に真似た）の擬似本体2と、該擬似本体2の後方部に設けられた釣り針15と、該擬似本体2の前方部に設けられた連結部5とを備える擬似餌を示し、例えば、イカ用の擬似餌として使用されるものである。

【0011】連結部5は、図2（a）にも示すように、ミチ糸が締結される締結部6と、該締結部6から延出された棒状部7と、該棒状部7の端部に設けられた抜止部8とから形成されており、該連結部5は、硬質な部材、例えば、金属や硬質プラスチックなどで形成されている。擬似本体2の前方壁には、連結部5の棒状部7が挿入可能で且つ抜止部8が挿通不能な挿通孔10が設けられており、更に、擬似本体2の内部には、該挿通孔10に連通し、且つ抜止部8の移動可能な空洞部11が擬似本体2の長手方向（擬似餌1の遊泳方向）に沿って設けられている。

【0012】連結部5は、その棒状部7が挿通孔10に挿入され、且つ抜止部8が空洞部11内に遊嵌されると共に、締結部6が擬似本体2の前方壁外部に突出された状態で擬似本体2に装着されており、かかる構成により、連結部5は、擬似本体2の長手方向に出退可能に設けられている。

【0013】さらに、擬似本体2の空洞部11には、付勢手段が設けられており、該付勢手段によって連結部5は擬似本体2の内部側へと付勢されている。ここで、連結部5が擬似本体2の内部側に付勢されているとは、連

結部5が突出した際に、この連結部5が擬似本体2の内部側に付勢されている（戻される）ことを意味し、従って、連結部5が突出していない状態では擬似本体2の内部側へ何ら付勢されていないが、突出すると連結部5に付勢力が加わる構成や、連結部5が突出していない状態に於いても連結部5に付勢力が加わっている構成などの何れの構成も含まれる。

【0014】該付勢手段としては、例えば、図示したように、コイルバネ12を用いることができ、該コイルバネ12は、連結部5の棒状部7に挿入されていると共に、擬似本体2の被抜止部14（挿通孔が形成されている擬似本体2の内壁14）と連結部5の抜止部8との間に介装されている。

【0015】かかるコイルバネ12によって、連結部5は、その締結部6を擬似本体2の前方壁外部に常時突出した状態で、擬似本体2の内部側に付勢されている。

尚、15は、もどりが設けられていない釣り針（具体的には、傘針）を示し、16は、擬似本体2の下方外部に設けられた錘を示す。

【0016】上記構成からなる擬似餌1は、連結部5の締結部6にミチ糸を締結し、該ミチ糸を引き寄せることにより、擬似餌1は、締結部6を先頭にして長手方向に沿って水中を遊泳する。かかる擬似餌1は、ミチ糸が連結される連結部5が、出退可能で且つ擬似本体2内部側に付勢されているので、例えばミチ糸を強く引くと、付勢手段に抗して抜止部8が空洞部11内を移動することによって連結部5が（最長、抜止部8が被抜止部14によって係止されるまで）突出し（図2の（b）参照）、その後、付勢手段によって元の位置にまで戻る。

【0017】かかる原理によって、例えば、擬似餌1を使用中に岩などの障害物に根掛かりしても、図3に示すように、ミチ糸20を強く引張って連結部5を突出させた後（同図（a）参照）、急にミチ糸20のテンションを解除させると、連結部5は、付勢手段の付勢力によって擬似本体2内部へ戻ることとなり（同図（b）参照）、その反動によって擬似餌1は後方側へと位置ずれを起こし、障害物21から外れることとなる。従って、本発明に係る擬似餌1は、従来の擬似餌に比して、容易に根掛かりを解除することができる。

【0018】また、イカを釣り針15に引掛けた後に於いて、イカが不用意な動きをしたり或いはミチ糸の巻き取りを上手にできなかったりして、ミチ糸が緩んだ場合でも、連結部5が擬似本体2に対して出退して、ミチ糸の緩みを緩衝することができる。従って、本発明に係る擬似餌1は、硬い竿を使用などしてもイカの針外れを防止することができ、従来の擬似餌に比して、優れた釣果を期待でき、特に、もどし実質的に設けられていない（もどし（外れ防止用の逆棘状の尖部）が設けられていないか、又は極めて小さなもどしが設けられている）釣り針が用いられるイカ釣り用擬似餌として好適である。

【0019】尚、上記実施形態に於いて、付勢手段としてコイルバネ12を擬似本体2の被抜止部14と連結部5の抜止部8との間に介装することによって連結部5が付勢されているが、これに代えて又は加えて、例えば、前記被抜止部14と抜止部8との間に、付勢手段として板バネや塊状ゴムなどの各種の弾性体（特に図示せず）を介装させてもよい。また、上記実施形態に於いては、抜止部8を付勢手段によって擬似本体2内部側へ押すように付勢手段が介装されているが、例えば、抜止部8と空洞部11の後方壁11aとの間に、コイルバネやゴムなどの弾性体などからなる付勢手段（特に図示せず）を介装させ、抜止部8を擬似本体2の内部側へと引張ることによって連結部5を擬似本体2の内部側へ付勢するように構成することもできる。

【0020】さらに、図4に示すように、擬似本体2の前方壁内に、付勢手段として塊状のゴム23を設け、このゴム23の後方に抜止部8が係止されるように構成することもできる。かかる構成でも、連結部5が前方側に移動することによってゴム23が適宜変形し、連結部5にゴム弾性による付勢力が加わることとなる。また、上記実施形態に於いては、付勢手段が擬似本体2の内部に具備されているが、例えば、図5に示すように、付勢手段が擬似本体2の外部に設けられていてもよい。具体的には、かかる擬似餌1は、棒状部7が長手方向に沿って突設された擬似本体2と、ミチ糸20が締結される締結部6を有し、且つ内部に空洞部11が設けられた連結部5と、前記棒状部7に具備された付勢手段（例えば、コイルバネ12とを備え、前記連結部5の空洞部11内に棒状部7が挿入されていると共に、空洞部11に設けられた被抜止部14と棒状部7に設けられた抜止部8の間にコイルバネ11が介装された構成からなる。かかる擬似餌1に於いても、長手方向に連結部5が出退可能で、且つ付勢手段により、連結部5が擬似本体2の内部側へと付勢されている。

【0021】また、上記実施形態に於いては、連結部5とは別に、付勢手段が設けられているが、例えば、連結部5自体を伸縮可能に構成してもよい。このように、連結部5を伸縮可能に構成した場合であっても連結部5がミチ糸の引張りなどに応じて適宜伸縮するので、上記と同様に根掛かり解消や外れ防止の効果を有する。尚、このように構成する手段としては、例えば、図6の（a）に示すように、連結部5の一部（棒状部6など）又は連結部5の全体を、ゴムやコイルバネなどの弾性体17で形成したり、或いは、図6の（b）に示すように、輪状に形成した弾性体17に、硬質のリング状体からなる連結部5を繋いだ構成などが例示される。

【0022】さらに、上記実施形態に於いて、連結部5は、擬似餌1の遊泳方向に沿って出退可能に設けられているが、連結部5の出退方向は、かかる方向に限定されず、任意の方向に設定してもよい。但し、連結部5を擬

似餌1の遊泳方向に出退可能に設けることによって、ミチ糸の引張りや緩めによって連結部5を確実に出退させることができるという効果を有する。

【0023】また、上記実施形態に於いては、対象魚としてイカ用の擬似餌を例示しているが、本発明に係る擬似餌は、イカ釣り用に限られず、ブラックバス、スズキなどの淡水・海水を問わず、各種の対象魚に用いることができる。従って、擬似本体2や釣り針15などの形状なども上記実施形態に限定されるものではない。

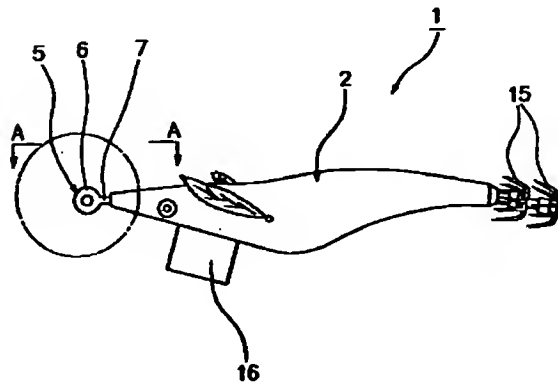
【0024】

【発明の効果】以上のように、本発明に係る擬似餌によれば、使用中に擬似餌が根掛かりをしても、容易に解除することができる。さらに、一旦引掛けた魚やイカなどの対象魚に対して、針外れが生じにくいものである。特に、実質的にもどりが設けられていない釣り針を使用するイカ釣りにおいては好適である。

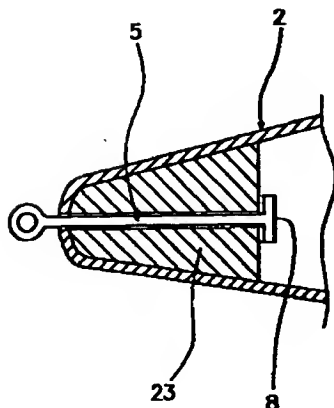
【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る擬似餌の一実施形態を示す側面

【図1】



【図4】



図。

【図2】(a)は、図1の丸囲い部分のA-A線一部省略断面図を示し、(b)は、連結部5を引張った状態を示す一部省略断面図。

【図3】擬似餌の使用状態を示す参考図であって、

(a)は、根掛かりした擬似餌に対し、ミチ糸を引張った状態を、(b)は、当該ミチ糸を緩めた状態を、

(c)は、擬似餌が障害物から外れた状態をそれぞれ示す。

10 【図4】本発明に係る擬似餌の他実施形態を示す一部省略断面図。

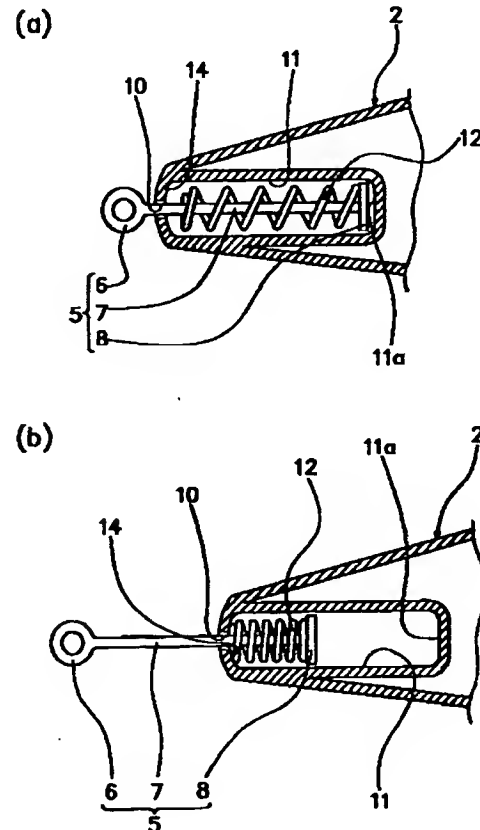
【図5】本発明に係る擬似餌の他実施形態を示す一部断面を含む一部省略側面図。

【図6】本発明に係る擬似餌の他実施形態を示す一部省略側面図。

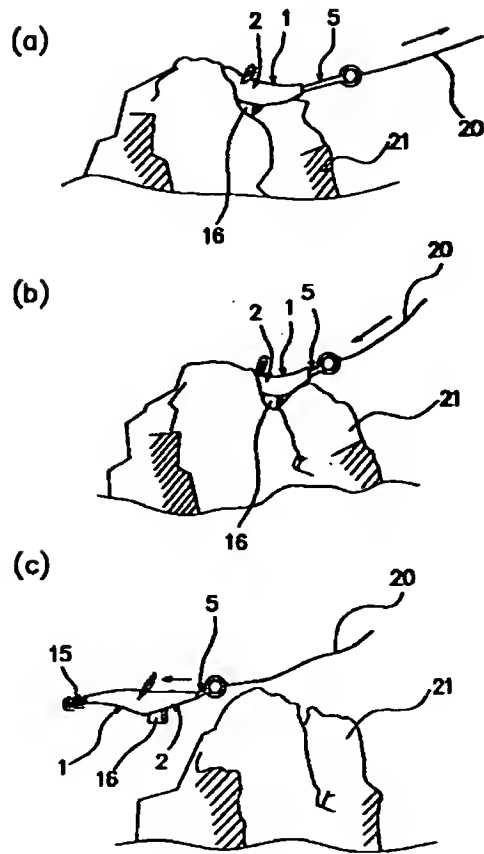
【符号の説明】

2…擬似本体、5…連結部

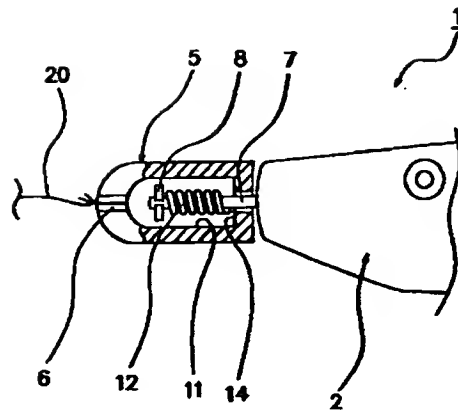
【図2】



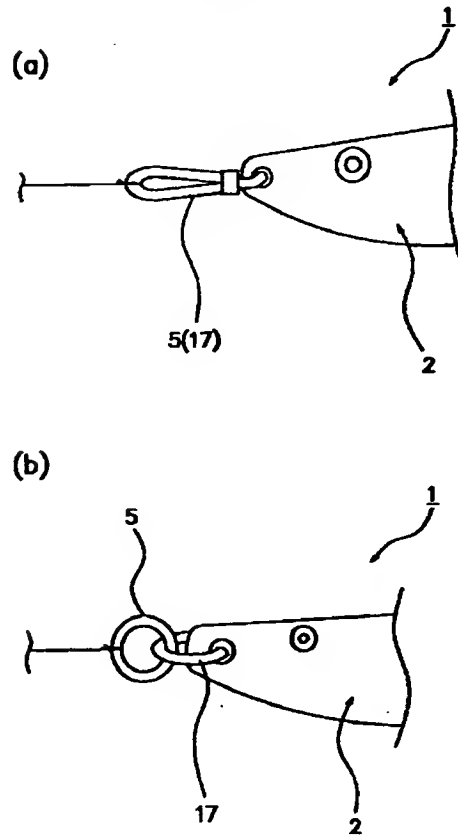
【図3】



【図5】



【図6】



DERWENT-ACC-NO: 2002-031021

DERWENT-WEEK: 200204

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Dummy bait for use in fishing has connecting
rod that is normally energized towards inner side of front
chamber by spring, and which may be pulled away from front
chamber

PATENT-ASSIGNEE: YOZURI KK[YOZUN]

PRIORITY-DATA: 2000JP-0118861 (April 20, 2000)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 2001299153 A	October 30, 2001	N/A
005 A01K 085/00		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP2001299153A	N/A	2000JP-0118861
April 20, 2000		

INT-CL (IPC): A01K085/00, A01K097/24

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2001299153A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - A connecting rod (5) is normally energized towards the inner side of a front chamber (11) by a spring (12). The rod is partially pulled out such that it resists force of spring when eyebolt (6) formed at end of rod is pushed away from front chamber.

USE - For use in catching e.g. squid, fish.

ADVANTAGE - Enables easy release of dummy bait.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows sectional views of the

dummy bait
with the connecting bar at pulled and inserted states.

Connecting rod 5

Eyebolt 6

Front chamber 11

Spring 12

CHOSEN-DRAWING: Dwg.2/6

TITLE-TERMS: DUMMY BAIT FISH CONNECT ROD NORMAL INNER SIDE FRONT
CHAMBER SPRING
PULL FRONT CHAMBER

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2002-024276